

日本鉄鋼協会記事

企画委員会

第5回委員会 開催日：9月19日。出席者：細木委員長代理，ほか12名。

1. 昭和49年度収支予算作成準備の件。

各委員長，部会長，主査などに10日末日までに予算要求書の提出を依頼することとしたが，49年度の臨時支出として考えられるものには次のものがある。

① 第2回の鉄鋼科学国際会議に会長夫妻ほか数名の中立者の出席費。

② 各国の研究所へのミッション派遣。

③ 会員事務などのコンピュータ化への移行。

④ 情報システムの合理化。

2. 鉄鋼科学技術史委員会設置の件。

企画委員会として委員会の設置を承認。

3. 浅田賞授賞時期変更の件

浅田賞は従来ほかの協会各賞とともに春季に授賞が行なわれていたが，神戸製鋼所の了承がえられれば，授賞式ならびに受賞者特別講演を秋季大会時に変更することになった。

4. 表彰奨励選考分科会報告。

大河内賞ほか各社より推薦された全候補を推薦した旨報告。

5. クルト，ネッター博士顕彰特別講演会共催の件。

東冶金で計画されたもので日本鉱業会などとともに共催することに決定。

2. 2四半期報告書(案)について検討し，一部を修正した。

3. SE分科会の活動報告(アンケート発送WGの設置など)について正田主査より報告があり承認された。

4. MC分科会の活動報告(情報の流れなど)が承認された。

9月末に出すことを依頼されているトータルシステムからの情報について検討した。

5. 原研委員より多目的高温ガス実験炉システムの概要説明があつた。

第3回システムエンジニアリング分科会 開催日：9月27日。出席者：正田主査，ほか19名。

1. 原研より大型多目的高温ガス炉のシステム試設計(熱出力3000MWt，He出口温度1000°C)の概要説明があつた。

2. 50MWt炉に接続される製鉄トータルシステムの概念設計方針について審議した。50MWt炉はfeasible modelであり，設計の目標をまずここに置くことで意見の一致をみた。概念設計についてはSE分科会委員，各部会長，実施企業のプロジェクトリーダーにアンケート型式で意見を伺うことにした。

3. 分科会の下に新たに3つのワーキンググループをもうけ，それぞれシステム構成，システムモデル化，システム解析を行なうことになった。

第4回システムエンジニアリング分科会 開催日：10月15日。出席者：正田主査，ほか18名。

1. 50MWt原子炉に接続される製鉄トータルシステムの設計条件に関するアンケート案(主査提案)について検討した。一部加筆後，10月16日協会より担当者に配布回答を依頼した。

2. SE分科会の作業内容，48年度報告書目次案，WGの設置について審議した。

各WGの活動は12月末までヒアリングを含めて5～6回を予定した。

3. 多目的高温ガス実験炉システムの概要説明が原研委員よりあつた。熱利用系システムについて質疑応答がなされた。

第5回マネジメント・アンド・コントロール分科会 開催日：10月4日。出席者：中村主査，ほか7名。

1. ナンバーリング・システムについては，分類記号も含め，結論を出せる状態になつたので，最終まとめを乙部委員が中心となつてまとめることになった。

2. 情報検索システムのキーワードについては，次回にまとめあげる。

3. 全体計画の俯瞰PERTにおける各サブシステム・グループ間の調整については，中村主査が各関係先に出向いて，下打合せをして，次回M&C分科会で報告し，検討することになった。

4. 「研究開発上必要な情報とその情報ルートおよび時期(一次)」の資料については，印刷し，各委託企業，技術委員会の各部会の情報担当者へ送付することになった。

編集委員会

第8回和文会誌分科会 開催日：10月5日。出席者：田中主査，ほか14名。

1. 16件の論文の審査報告があり，そのうち掲載可10件。修正依頼は6件あつた。

2. 鉄と鋼第60年第2号に論文11件，技術報告1件の掲載が決まつた。

3. 鉄と鋼投稿規程の改正については，小委員会を設けて検討することになった。

第7回欧文会誌分科会 開催日：10月15日。出席者：橋口主査，ほか6名。

1. 5件の論文について審査報告がなされた。

2. 「鉄と鋼」59年13号と，59年14号，60年2号のアブストラクト，および「鉄と鋼」以外の会社刊行誌，学協会誌から12件の論文につき勧誘論文が選定された。

原子力製鉄トータルシステム委員会

第3回委員会 開催日：10月23日。出席者：大竹委員長，ほか20名。

1. 委員長より「前回技術委員会において，当委員会に関する項はほとんどオーソライズされたとの報告があつた。

5. 全体計画の俯瞰 PERT をについては、今後、第2次案を作成することにし、上記3.も含め、そのための調査作業を開始する。第2次粗案ができたところで、PERT作成のためのワーキング・グループをつくるとともに、コンピューターに関する作業は千代田化工へ発注することにする。

6. 外部講師によるヒアリングについては、近々DS-1で開かれる会に、主査が聴き、分科会で報告するとともに、そのほか外部講師については主査で必要なことが得られるかどうかを検討し、もし充分必要なことが得られることが判明すれば、分科会に外部講師を招き、ヒアリングを行なうことになった。

共同研究会

圧延理論部会

第50回部会 開催日：9月28, 29日。出席者：吉田部会長、ほか54名。

共同実験「冷間圧延潤滑特性」は各研究所での実験が完了したので、今回実験の幹事会社、新日鉄八幡技研にて取りまとめた結果が報告され、ロール径の影響などいくつかの興味ある事実が指摘された。

また従来通り、板圧延、条管圧延、制御性について活発な研究報告がなされた。

共同実験についてはこれで一応完了とし、残された問題点については今後関係部署で分担して検討をすすめることとした。

また新制度の圧延理論部会となつてから50回のときを経た当部会の歴史について、住金中研岡本氏より報告がなされ、理論の発展の経緯など興味深いものであつた。

なお50回を記念して、来春シンポジウムを催すことが提案され、承認された。

熱経済技術部会

第53回部会 開催日：9月27, 28日。出席者：片田部会長、ほか82名。

1. 昭和47年度の一貫工場8社20事業所非一貫工場7社10事業所におけるエネルギーバランスの報告があつた。

2. 前回統一議題「代替燃料の使用上の問題点とその対策」および「熱処理炉の改善事例」のとりまとめ結果の報告があつた。

3. 統一議題「鋼片加熱炉の熱量原単位低減対策と可能限界」について8事業所よりの報告があつた。

4. 統一議題「加熱炉冷却水の問題点と対策」について22事業所より報告があつた。

5. 自由議題として「熱設備燃焼管理と設備改善事例」、「廃棄物処理センターの概要について」など10件の報告があつた。

計測部会

第55回部会 開催日：10月25, 26日。出席者：野坂部会長、ほか102名。

1. 幹事報告

2. 小委員会報告

(1) 保全に関する教育小委員会最終報告。

(2) プロコン計装工事基準小委員会中間報告。

3. 研究発表

(1) 製鉄関係の計測 2件

(2) 圧延関係の計測 4件

(3) エネルギー関係の計測 1件

(4) 製品検査のための計測 1件

(5) 計測技術の改善研究新技術新製品の紹介 9

件。

(6) 環境管理に関する計測 7件

4. 講演「トレーサビリティについて」

計量研 高田誠二

5. 工業計器の規格制限実施についての説明

6. 工場見学

富士電機製造(株) 東京工場

原子力部会

第7回委員長会議 開催日：10月3日。出席者：大竹委員長、ほか14名。

1. 大竹正新部会長より就任の挨拶があつた。

2. 今後の運営について討論された。

取り上げたいテーマとして、熱利用系側の安全性の検討、還元ガスに関する ISPra の資料入手、将来(原子力製鉄実現の頃)の化石燃料の予測などが挙げられた。流動層炉に関する調査依頼が工技院より協会あてにあつたので流動層 WG で引き受けることにした。

組織については、「委員長会議を改め企画小委員会とし、システム小委は廃止する。ほかに特許グループ、第2～5小委員会、熱交換器還元ガス小委員会は存続する。今後必要に応じて改組していく」ことで意見の一致をみた。

各部会長はできるだけ留任されたいとの部会長の発言があつた。

標準化委員会

第50回普通鋼分科会 開催日：10月11日。出席者：青木、ほか10名。

1. 自動車構造用熱間圧延鋼板・鋼帯 50キロ、60キロ級の機械的性質(引張強さ、降伏点、伸び、曲げ)の検討を行なつた。

2. 自動車構造用冷間圧延鋼板・鋼帯 40キロ、50キロ、55キロ級の機械的性質(降伏点、伸び)および平坦度(そり)について検討を行なつた。

3. 造船用鋼材の統一記号

一部ルールの変更に伴う改正素案の検討を行なつた。

第40回特殊鋼分科会 開催日：9月21日。出席者：西主査、ほか20名。

1. 自動車構造用鋼材協定規格の検討
連铸材の取り扱い H 鋼の Mn 量の範囲、S 快削鋼の Mn 増加量、焼入性の指定方法清浄度の程度、かたさ数値、寸法許容差表示などについて検討し、要望書を作成

した。

.....
第 8 回薄鋼板に関する規格体系調査分科会 開催日:
 9月28日. 出席者: 三佐尾主査, ほか 14 名.

1. アンケート結果のまとめ
 要約のさいのルール化, 分類番号の決め方, 鋼種記号の命名法について検討した.
2. 構造用鋼の体系
 YP 40 以下と 40 以上に分け, 用途, 特性で分類する案について検討した.

第 1 回ほうろう用鋼板原案作成分科会 開催日: 9月
 25日. 出席者: 久松主査, ほか 18 名.

1. ほうろう用鋼板
 需要者側から JIS 原案に盛り込むべき特性 (つまどび性, 機械的性質, 熱歪量, 酸性減量, 寸法許容差) についての意見があり, 検討の結果, 対象を脱炭鋼板におくことになった.

第 3 回脱炭層・硬化層深さ測定方法原案作成分科会
 開催日: 10月16日. 出席者: 田中主査, ほか 19 名.

1. 鋼の浸炭硬化層深さ測定方法
 全硬化層の定義, かたさ推移曲線の作り方, 試験品の取り扱い, 試験荷重について検討を行なった. なお各社で使用している主要荷重を調査することになった.

鉄鋼標準試料委員会

第 34 回委員会 開催日: 10月3日. 出席者: 池野委員
 長, ほか 18 名.

1. 在京委員会の活動状況概要の報告があつた. (標準値の決定 12 種)
2. 鉄鋼標準試料在庫量および製造予定について報告があつた.
3. けい光 X 線分析用標準試料貸借システムの契約条項と細目項目が承認された.
4. 標準試料容器変更に関して, 鉾石および金属用に対する実験計画が提案され, 承認された.
5. 各国の標準試料の価格比較の説明があつた. 輸出価格は円建てとすること以外はこれまでどおりとすることにした.
6. 在京委員会から提案された分析成績表の様式変更案について審議し, その大綱は認められた.
7. 標準値決定に関する事務上の問題点とその対策について検討した.

材料研究委員会

第 7 回委員会 開催日: 9月20日. 出席者: 長島委員
 長, ほか 18 名.

1. 研究外部発表の原則について
2. Mn-Mo 鋼の SR 脆化と焼もどし脆性
3. オージェ電子分光測定結果 (中間報告)
4. 今年度予備試験結果検討
 について検討を行なった. 1. は共同研究の成果公表に関する原則を取りきめたものである. 3. は前年度試料のうち, オージェ電子分光分析を行なうこととしたもののうち測定を完了したものについて報告がなされた. 4. は今年度の試験条件を定める予備実験結果について協議し, 各社の試験水準を再調整し, 結果の積ながめが可能ないように試験水準を定めた. 2. は神鋼の研究結果の報告である.

鉄鋼基礎共同研究会

第 24 回強度と靱性部会 開催日: 10月8日. 出席
 者: 荒木部会長, ほか 14 名.

1. 研究報告「低炭素鋼低合金鋼の逆変態」: 新日鉄
 松田 (長島委員代)
2. 研究報告「非金属介在物の形状制御と延靱性」:
 日本鋼管 小指委員
 の上記 2 件の報告, 質疑応答が行なわれたあと, 本年英国で開催された第 3 回強度国際会議の報告が荒木部会長よりなされた.

来年 2 月にマイクロ組織と強度靱性に関するシンポジウムを開催することが確認され, 講演者の依頼について協議した. なおその後, 秋の講演大会 (九州大学) の機会に打ち合わせ会を持ち, 最終報告取りまとめの分担 来春のシンポジウムでの講演者が協議, 決定された.

第 12 回固体系質分析部会 開催日: 10月15日. 出席
 者: 須藤部会長, ほか 14 名.

1. 第 1 グループ
 課題別 (A B C D) 実験経過報告
2. 第 2 グループ
 第 2 回共同実験結果報告
3. 第 3 グループ
 自主研究報告
4. 講演「日米科学ゼミナールに出席して」
 東北大 金研 広川吉之助
5. その他

新 入 会 員 氏 名

(昭和48年7月1日～7月31日)

正 会 員

小松 力 新日本製鉄(株)
君津製鉄所
種藤 泰成 // 名古屋製鉄所
半沢 貢 // 製品技術研究所
松崎 秀生 // 八幡製鉄所
門田 安弘 // 基礎研究所
飯屋崎 保 住友金属工業(株)
小倉製鉄所
松井 利光 // //
松原 紀之 // //
柴田 雄 // //
ニューヨーク事務所
玉田 明宏 日本鋼管(株)
技術研究所
寺本 豊和 // //
福田 脩三 // //
杉山 忠男 // 福山製鉄所
畑中 政之 // 京浜製鉄所
池田 隆男 (株)吾孺製鋼所
加藤 正夫 // 製鋼工場
菅野 道夫 // //
本間 誠 // //
松沢 成幸 // //
山中 康 // //
勝田順一郎 (株)神戸製鋼所
神戸製鉄所
松岡 輝俊 // //
小坂 忠久 // 加古川製鉄所
伊藤 俊治 川崎製鉄(株)
技術研究所
拜田 治 // //
梅村 晃由 埼玉大学
機械工学科助教授
小熊 進 日本金属工業(株)
研究室
大代 三夫 鈴木金属工業(株)
赤羽工場
大庭 昭二 (株)鉄原
大松頭逸郎 日本高級金属工業(株)

奥村 照雄 (株)昭特製作所
佐藤 清二 東北大学
選鉱製鉄研究所
渋谷 佳男 静岡県機械技術指導所
進藤 久雄 大太平洋金属(株)
末吉 秀一 鹿児島大学
機械工学第2学科
鈴得 求 真空冶金(株)
内藤 善博 大同製鋼(株)知多工場
中村 満 日本高級金属(株)
原 隆三 三菱製鋼(株)本社
藤井 幹也 タキロン化学(株)
町田 賢司 東京理科大学
機械工学科
安永 博一 日立金属(株)安来工場
吉田 茂 東南貿易(株)
若松 貴英 京都大学
資源工学教室助教授
渡辺 忠利 東北重化学工業(株)
伊達工場
石本 清司 川崎製鉄(株)
技術研究所
越田 治 住友金属工業(株)
鹿島製鉄所
佐藤 茂夫 日本工業大学
酒匂 雅隆 日本鋼管(株)
技術研究所
田原 正昭 大同酸素(株)
学 生 会 員
荒木 重臣 早稲田大学
理工学部金属科
栗多 邦夫 // 大学院
井口 正二 // //
理工学研究所
諫山 英城 // //
一藤 和夫 // 理工学部
金属工学科
大沢 基明 // //
加藤 公明 // 大学院
理工学研究科

岸部 直喜 // 理工学部
金属工学科
坂谷 稔 // //
鈴木 一弘 // //
丹治 彰 // //
富山 透 // //
中塚 正幸 // //
藤田 正仁 // //
古川 高司 // //
松井 和幸 // //
薬師寺弘昌 // //
柳 芳彰 // //
渡辺 芳明 // //
井上 宣男 富山大学工学部
金属工学科
小中 修 // //
千先 英樹 // //
高坂 聖晶 // //
苗加 雅敏 // //
門田 重見 // //
米田 幸一 // //
若杉 増夫 // //
秋山 賢治 日本大学生産工学部
機械科
伊藤高太郎 // //
加藤 正人 // //
小山 和夫 // //
高島 芳光 // //
鈴木 建次 大阪府立大工学部
金属工学科
中田 徹 // //
長原 成吉 // // 修士
福西 利夫 // // //
鈴木曉男 東京工業大学大学院
生産機械

外 国 会 員

Thomas M. Barnes U.S.A.
Alloy Steels Plant India

(昭和48年8月1日～8月31日)

正 会 員

高田 芳一 日本鋼管(株)
技術研究所
高野 宏 // //
福田 耕三 // //
鷺山 勝 // //
河合 伸泰 (株)神戸製鋼所
中央研究所
岩井 隆房 // //
堤 正之 // 高砂工場
登根 正二 // 加古川製鉄所

井下 力 新日本製鉄(株)
君津製鉄所
川崎 宏一 // //
奥村 直樹 // 基礎研究所
山田 正弘 // 製品技術研究所
伊奈 克俊 // 八幡製鉄所
井上 恵三 住友金属工業(株)
中央技術研究所
川口 喜昭 // //
綿引 純雄 川崎製鉄(株)
技術研究所

稲垣 憲雄 トピー工業(株)
豊川製造所
川上 隆 住友重機械工業(株)
国枝 政幸 大同製鋼(株)
佐竹 忠 (株)小松製作所
大阪工場
田中 稔 日本冶金工業(株)
川崎製造所
溜尾 松明 中京製線(株)
永利 匡輔 日本ステンレス(株)
直江津製造所

西田 光作	大阪鋼材(株)	楠橋 寛	住友金属鉱山(株)	世良田勝彦	東北大学
野崎 柳治	日本特殊鋼(株)		別子事業所		選鉱製錬研究所
波多野憲郎	三興製鋼(株)	青木 智幸	日本パーカライジング		学 生 会 員
淵 保成	日本電工(株)日高工場		(株)	小田 洋	愛媛大学大学院
松原 光治	神鋼鋼線工業(株)	青鹿 雅行	石川島播磨重工業(株)		工学科冶金学専攻
森田 俊一	東洋鋼板(株)下松工場	上村 章夫	大倉商事(株)	前田 光明	九州大学大学院
森本 鉄之	周南電工(株)		大分事務所		工学研究科
八島 舜一	日本鉱業(株)	小沢 照雄	富士重工業(株)	下瀬 敏憲	〃 〃
	三日市製錬所	奥 達雄	日本原子力研究所	佐藤 博之	早稲田大学金属工学科
八代 利定	日本金属(株)		東海研究所		外 国 会 員
横沢 計治	旭硝子(株)研究所	川辺 英二	共英製鋼(株)	S. K. Chatterjee	West Germany
脇本 昌広	川鉄鋼板(株)	清藤 純一	鹿児島県立機械金属技	Hiroshi Masuda	Brazil
岸 喜一郎	(株)伊藤製鉄所		術指導センター		維 持 会 員
	石巻工場	清水 勇	日新製鋼(株)		富士塗油器(株)
柿田 和俊	新日本製鉄(株)		周南製鋼所		
	欧州事務所				